

1日(土) ・2日(日)	第34回ふっさ桜まつり
8日(土)	恒例、春のウォーキング「六道山を散策」
15日(土)	わくわく土曜日～春の自然観察会～

第34回ふっさ桜まつり開催中！今年子ども用消防服体験コーナーもあります！



今号の主な記事

3面市役所閉庁のお知らせ 6面公園ボランティアを募集しています 7面平成29年度の道路舗装工事などの主な予定箇所  
8面予防接種について 9面産前・産後支援ヘルパー事業について 12面広報ふっさが電子ブックとして読めるようになりました

## 平成 29 年度施政方針

施政方針とは、市政運営にあたり、市長が重要施策や予算について、第1回福生市議会定例会で表明するものです。



福生市長 加藤育男

昨年5月の市長選挙におきまして、市民の皆様方からご信任をいただき、3期目の市政運営に当たらせていただくこととなりました。早いもので、それから9か月が経過いたしました。この間、議員並びに市民の皆様から多大なるご指導、ご協力を賜りましたことに改めて、厚くお礼申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、さまざまなことがありました。世界情勢をみますと、まずは、アメリカ大統領選挙が今年の11月に行われ、大方の予想を覆し、共和党のドナルド・トランプ氏が第45代の大統領に就任しました。特に基地に対するトランプ大統領の発言や動向については、注視する必要があります。

東京都においても大きな動きがありました。昨年の7月31日には東京都知事選挙が行われ、小池新都政がスタートしました。

小池都知事は、このたび多摩地域の首長との意見交換の機会を設け、2月13日に、私も都庁に出向き、本市の現状や東京都に対する要望を訴えてまいりました。

今回の要望に対する対応を期待するとともに、今後も小池都政の動きに注目し、新たな補助金等の創設など区市町村に対する支援等について、情報収集に努めてまいりたいと考えています。

### 定住化対策について

#### — 2年連続全国2位を獲得 —

福生市は、都内の他市よりも早くに人口減少が始まったため、特に「子育て世代」を定住化のターゲットと定め、「子育てするなら ふっさ」をスローガンに、さまざまな子育て支援施策に力を注ぎ、推進してまいりました。

おかげさまで、昨年4月において、保育園、児童クラブ双方で待機児童を解消した市は、26市では福生市だけでした。

また、昨年7月には、子ども応援館に地域子育て支援拠点となる「ふれあいひろば」を開設する等、更なる子育て支援施策を進めるなか、「共働き子育てしやすい街2016 総合ランキング」で昨年度と同様に、全国2位という評価をいただいたことは、これまで進めてきた市の施策の評価でもあり、子育て世代の転入を誘引する大きな要素の一つとなると考えています。

そのほか、学校教育においてもタブレット学習の導入や英語教育にも力を注ぎ、中学校全校への外国人指導助手の常駐配置、英検の公費負担など、子育て環境の更なる充実が図られるよう、多角的に施策に取り組みました。

施設整備等のハード面では、防災食育センターともくせい会館の建設工事が平成29年度中に完了します。また、扶桑会館の移転に伴う福生市営福生駅西口駐車場や都市計画道路3・4・7号富士見通り線の整備事業もあります。

ソフト面では、平成29年度も引き続き、中心市街地の活性化に資する福生駅西口まちづくり検討会の運営および地元合意に基づく再開発準備組合の設立に向けての取り組みを支援してまいります。

#### — ふっさっ子のための環境作りを —

そして、定住化施策の目玉である「子育て支援策」では、平成29年度も手を緩めず、他の自治体にも負けない子育て支援策を継続的に進め、「子育てするなら ふっさ」を市内外に発信し、子育て世代の定住化を促していきたいと考えています。

併せて、子育て環境の充実には、当然「教育施策」が重要です。「ふっさっ子」の持っている能力を最大限発揮できる環境をつくるため、教育委員会や学校そして市長部局が、ともに使命感と情熱を持って、子どもたちのために力を尽くす、これが「教育立市」

の実現に向けて必要だと思っています。

このことを念頭に平成29年度も、タブレット端末を小学校第3学年のすべての児童に貸与するなど、教育委員会とともに、「ふっさっ子」の成長を支える環境整備・充実に努めてまいります。

### 横田基地について

#### — 5市1町間の連携 —

騒音防止対策や安全対策の推進、航空機事故の防止など、横田基地の整理・縮小・返還を含めた必要な措置を講ずるよう、さまざまな機会を通じて、国や米軍に対して要請を行うとともに、東京都や基地周辺5市1町でも十分に連携して、この問題の解決に向けて取り組んでいます。

現在、横田基地には、米国政府が平成29年から平成33年にかけて、合計10機のCV-22オスプレイを配備する計画がありますが、そのうち最初の3機を本年後半に配備する予定です。(※後日、防衛省北関東防衛局から「米国が最初の3機の配備を平成32年に延期すると発表した」との情報提供がありました。)

私は、オスプレイの配備計画が発表された直後から、何度も国や米軍に対して、オスプレイの配備計画や安全性等についての迅速で正確な情報提供を求めるとともに、東京都や基地周辺5市1町でも十分に連携をして、この問題に取り組んでいますが、市民の懸念や不安を払しょくできるような十分な説明は得られていない状況です。

#### — 貴重な意見交換を経て —

東京都や5市1町での連携のほかにも、昨年6月には、国内で初めてMV-22オスプレイが陸揚げされた岩国基地を抱える山口県岩国市を訪問し、オスプレイをはじめとした基地問題について、福田岩国市長と意見交換をさせていただきました。

さらに、昨年10月には、普天間基地を抱える沖縄県宜野湾市を訪問し、佐喜真宜野湾市長と意見交換をさせていただくなど、さまざまな形で基地問題に対する取り組みを行っています。

そのような中、昨年12月13日に、普天間基地所属のMV-22オスプレイ1機が、沖縄県名護市沖合で不時着水する事故が発生したことは、大変遺憾でした。

私は、事故が発生した直後の12月14日に、防衛省本省に出向いて地方協力局次長と面会し、原因究明や再発防止策について米軍に申し入れると

ともに、迅速で正確な情報提供を強く要請しましたが、さらに、その2日後の12月16日にも再び防衛省本省に出向いて防衛大臣と面会し、改めて、迅速で正確な情報提供を申し入れました。

また、東京都と基地周辺5市1町でも連携して、国の関係機関に対して、同内容の要請を行っています。2月12日には、北朝鮮から弾道ミサイルが突然発射されましたが、これに対する国の迅速な対応などを鑑みますと、日本およびアジア・太平洋地域の平和と安定のため、国防政策や安全保障の重要性は理解するところです。

しかし、市民の安全・安心の確保こそが、私にとって最優先事項です。今後も引き続き、国や米軍に対して、迅速で正確な情報提供を強く要請していくとともに、東京都や基地周辺5市1町でも十分に連携を図り、基地問題の解決に全力で取り組んでまいります。

### 平成 29 年度の予算編成について

#### — 一般会計 248 億 1,000 万円 —

平成29年度の予算編成は、これまでと同様に、基本計画に基づいた財源の重点的・効果的な配分や長期的視点に立った予算編成、財政運営の健全化などを基本的な方針として編成しました。

また、定住化施策を推進していく中、限りある財源を効果的に配分するため、歳出予算の査定においては、平成28年度予算と同様に財政課による一件査定を継続し、歳入においては国や東京都の補助金、交付金、そして財団法人などの助成金など、これまで以上に財源の獲得に努めました。

その結果、防災食育センター、もくせい会館の建設、富士見通りの整備などの大規模事業を継続実施することから、平成28年度に引き続き大規模な予算となっています。

一般会計の予算規模は248億1,000万円となり、前年度比で7,000万円、0.3%の減です。

臨時財政対策債の借り入れを4億円、財政調整基金からの繰り入れを3億円とし、財源調整をしました。

今後、老朽化した施設の更新等が控えており、多くの財源が必要となります。このような中で、市の課題である定住化対策を「総合戦略」をもとに推進するとともに、市民サービス向上に向けての施策を行うに当たり、歳入の確保、更なる経費節減に努め、健全な財政運営を続けていく所存です。

2面に続きます→

